

令和5年度 ADCA セミナー

「国際協力という選択～開発コンサルタントの醍醐味～」

結果報告書

令和6年2月

一般社団法人海外農業開発コンサルタント協会

1. 概要と目的

現在、世界人口の60%以上が農業に従事しており、開発途上国では貧困層の4人のうち3人が農村地域に居住し、生計を農業に依存しています。更に人口の増加や気候変動などに起因する環境問題やガバナンスなどこうした地域で取り組むべき問題も複雑化・多様化しています。

また、近年ではエネルギー生産や畜産業への穀物利用の拡大から穀物価格が高騰し、世界の食料事情が厳しい状況になりつつあります。これらの厳しい事情に対応するべく、我が国の開発途上国への政府開発援助（ODA）の基本方針は、貧困削減のための農業・農村開発分野の協力を重視しており、生産力向上などの農業農村開発を効果的・効率的に実施するために、開発途上国の政策や援助需要を踏まえつつ、我が国の経済社会発展や経済協力の経験を途上国の開発に役立てるとともに、我が国が有する優れた技術、知見、人材及び制度を活用し、貧困削減についてのプログラムを展開しております。

当協会では毎年世界の農業農村開発の展開について国際協力の関係者と今後の可能性、方向性について、我が国の農業農村開発協力の実績を振り返りながら、共に考える事を目的にセミナーを開催してきました。当セミナーでは、講演や協力事例報告等を通じて、開発途上国における農業農村開発協力の実績を正しく社会に発信し、次世代のグローバル人材となり得る学生を対象に農業農村開発協力の魅力を伝えることを目指しています。また、世界における農業や食料事情を提供し、我が国のODAにおける農業農村開発協力への理解を促進させることを目的としています。

2. 開催日時

令和6年2月3日（土）13：30～17：00

3. 開催場所

〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町8番地 TKP 市ヶ谷ビル

TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター バンケットホール 8B（オンライン併用）

4. 対象

農業農村工学分野の学生

5. 主催者

海外農業開発コンサルタント協会（ADCA）

6. 後援者

農林水産省

独立行政法人 国際協力機構

公益社団法人 農業農村工学会

7. コーディネータ

参議院議員 宮崎雅夫 氏

8. プログラム

13:30-13:40	開会挨拶	久野格彦 海外農業開発コンサルタンツ協会 代表理事・副会長
第1部 パネルディスカッション		
13:45-13:50	イントロ	パネルディスカッションの趣旨の説明
13:50-14:00	自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ■コーディネータ ・宮崎 雅夫 氏 (参議院議員) ■パネリスト ・菊谷 直子 氏 (三祐コンサルタンツ) ・相子 大海 氏 (NTC インターナショナル) ・三門 茜 氏 (日本工営) ・竹下 はるか氏 (三祐コンサルタンツ) (ブータンより中継)
14:00-14:10	国際協力の概説	ODA の解説した動画の放映、及び補足説明
14:10-14:55	新人開発コンサルタンの体験談	宮崎氏、及びパネリストによるディスカッション
14:55-15:00	総括	ディスカッション内容のまとめ
—コーヒーブレイク (10分) —		
第2部 グループワーク		
15:10-15:15	自己紹介	参加者のグループ分け、自己紹介
15:15-15:20	アイスブレイキング	世界にまつわるクイズ大会
15:20-15:25	テーマ1の説明	グループワーク「テーマ1」の説明、例題提示
15:25-15:40	テーマ1の演習	途上国の農村風景の写真に対して課題・対応策を列举
15:40-15:50	テーマ1の発表	テーマ1の成果を代表2グループが発表
15:50-15:55	テーマ2の説明	グループワーク「テーマ2」の説明、例題提示
15:55-16:10	テーマ2の演習	テーマ1で考えた対応策をそれぞれの立場でどのように実施できるか議論
16:10-16:20	テーマ2の発表	テーマ2の成果を代表2グループが発表
16:20-16:25	総括	宮崎氏による総評
16:25-16:30	閉会の挨拶	熊谷徹 海外農業開発コンサルタンツ協会 企画部長
—休憩 (10分) —		
第3部 ケータリング		
16:30-17:30	乾杯・立食	コンサルタントと学生の交流

9. 参加人数

会場来場 : 33名

オンライン : 26名

10. 内容

1) パネルディスカッション

第1部のパネルディスカッションでは、海外経験が5年程度までの若手技術者がパネリストとなり、海外出張での成功談や失敗談、初めての海外案件について語りました。関係者との交流や現地での食事や文化の楽しみ方等、海外出張の魅力を学生に伝えました。さらに、ブータン王国に滞在している竹下氏とオンライン中継し、現地の風景を見せながら出張先での生活について説明しました。

宮崎氏はコーディネータとして、自身の体験エピソードを交えながらパネリストと対談し、開発コンサルタントの魅力を学生に伝えました。

事後アンケート結果では、「海外でのプロジェクトを経験した方から直接話を聞くことで、開発コンサルタントの仕事への理解がより深まった。」とのコメントをいただきました。一方、「事前アンケートの結果を踏まえてディスカッションしてほしかった。」、「若手ではないコンサルタントの話も聞きたかった。」とのご要望もいただきました。



宮崎氏による ODA の概要説明



パネリスト（三門氏、相子氏、菊谷氏）



ブータン王国との中継（竹下氏）



宮崎氏とパネリストによる対談

2) グループワーク

第2部のグループワークでは、現在直面している開発途上国での課題について、学生自身で話し合い、解決策を考えてもらいました。学生は現地の写真を観察し、開発コンサルタントが取り組むべきことは何かを考え、宮崎氏やコンサルタント関係者のアドバイスを受けながら議論を進め、各グループでアイデアを整理しました。

事後アンケート結果では、「他大学の人と交流する機会が多くないため、貴重な経験ができた。」、「自分が学んだこと、聞いたことをもとに解決策に関する意見を出しつつ、他の参加者の方からも自分にはない意見を共有してもらえたので良かった。また、コンサルタントの方が、実際はどのような手段を取るのか説明して下さり、勉強になった。」とのコメントをいただきました。一方、「ファイルの共有がうまくいかなかったのが残念」、「事前にメールで頂いたグループ分けとは異なっていたので混乱した。」、「グループワークの難易度に対して時間が短すぎる。」との意見も出されました。



グループワークの様子



学生にアドバイスを送る宮崎氏

3) ケータリング

第3部では、来場した学生にアフリカや東南アジアの料理を提供し、ケータリング業者（バモス）より、各地の料理を紹介していただきました。立食を通じ、コンサルタント関係者と学生との交流を深めることができました。

事後アンケート結果では、「お店でもなかなか食べられない本場の料理を食べることができ、対面で参加して良かった。どれもおいしく、食を通じてアフリカ、東南アジアの文化を知ることができた。」、「ケータリングの時間があつたことで、グループのメンバーや開発コンサルタントの方々とお話しする時間が増え、このセミナーがより意義深いものになった。」とのコメントをいただきました。



11. 総括

今年度で13年目となる本セミナーは、4年ぶりに会場での開催が可能となり、対面、及びオンラインのハイブリッド形式としました。農業農村工学分野の学生だけでなく、農業ソフト系の学生や、文系の学生、社会人、大学教員等の多くの方が参加し、パネルディスカッションやグループワークを通じて、農業開発の魅力を感じてもらうことができました。

事後アンケートでは、回答者19名中14名が「満足」、4名が「やや満足」、1名が「やや不満」と、ほとんどの参加者が満足したと回答していただきました。「コンサルタント関係者や他大学・他分野の学生と交流ができた。」、「セミナーを通じて開発コンサルタントの業務内容について理解し、興味を持つことができた。自分も開発コンサルタントとしてやりがいのある業務をしたい。」との賞賛のコメントをいただきました。一方、「英語版のセミナーもあった方がよい。」等の意見も出されました。

また、会場とオンラインのハイブリッドは初めてで、画面の切り替えやデータの共有等がスムーズにできなかつたため、リハーサル時により注意するべきでした。

以上より、当セミナーは有益であったと判断いたしました。次回以降につきましては、今回の反省を活かし、より満足いただけるセミナーを開催できるよう、改善を図ります。